

やまなし教員等育成指標」に基づいた初任者研修システム及び研修プログラムの実施と検証

調査の概要

◆課題認識

- ・やまなし教員等育成指標をもとにした新たな教員研修システムの確立
- ・自身で資質能力を育成し続けていけるような初任者研修の必要性

◆調査研究の目的

- ・やまなし教員等育成指標に基づいた研修プログラム等、開発の基盤をつくる
- ・初任者が、教員として成長し続けていけるための研修方法を検討する

◆調査研究の方法

- ・大学と山梨県教育委員会の連携協議会の開催

- ・初任者研修会への大学教員派遣

- ・OPPA論の理論と実践についての若手教員学習会の開催

◆現状

- ・「やまなし教員等育成指標」の策定（平成29年11月）
- ・大学と山梨県教育委員会による連携協力に関する覚書の締結に基づく「養成-採用-研修」の一体的改革への着手
- ・一方で、「やまなし教員等育成指標」に基づいて大学と山梨県教育委員会が連携して新たな具体的な研修プログラムの開発にはまだ至っていない。

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

①ポイントA

- ・これまではなかった初任者研修会への大学の支援への道筋をつけた。
- ・小学校12校、中学校9校、高等学校4校、のべ25人の大学教員を初任者研修会へ派遣した。

②ポイントB

- ・「やまなし教員等育成指標」に基づいた教師の成長を支える新たな研修体制の試みとして、OPPA論の理論と実践についての4回の若手教員学習会を行い、294名の教員の参加を得た。

③ポイントC

- ・大学と山梨県教育委員会の連携協議会を通して、大学と県教育委員会による各種研修プログラムなどの連絡調整や検討を行い、効果的な連携のための体制基盤が整備された。

◆成果

- ・初任者研修会への大学の組織的な支援体制をつくることができた。大学教員の参加によって初任者研修会の内容の充実が図られると共に、大学教員の「養成-採用-研修」の一体化の重要性への関心の高まりと意識の向上が見られた。
- ・若手教員学習会でOPPA論による評価方法について知ることによって、多くの参加者が現在の自己の到達点と課題についての認識を深めることができた。またOPPシートによる研修の振り返りを通して、教師が自己の成長を認識できる研修方法に効果があることが確認された。
- ・大学と山梨県教育委員会の連携強化によって、各研修プログラム、教育フォーラム、附属学校園公開研究会などの効果的な活用がはかられた。

今後の課題

◆育成指標に基づいた教師の成長を支える研修体制・研修内容の組織化・体系化

- ・引き続き、大学と教育委員会との連携による研修体制・研修内容を検討する
- ・OPPA論についての全県的な研修は初めての試みであったため、この研修プログラムを継続し、さらに内容や方法を検討する（自己の専門性の省察、教師のレベルに応じた研修方法など）